

令和3年度 第3回留萌市地域公共交通活性化協議会 議事録

1. 日 時 令和4年2月22日（火） 15:30～
2. 場 所 留萌市幸町1丁目 留萌市役所3階 3・4号会議室
3. 出席者 渡辺稔之会長、田下啓一監査、塚本壽三郎監査、藤井信由委員、
佐々木一弘委員、上原慎一郎委員、九笹英司委員、田中麻衣子委員
松田順一委員、向井智仁委員
事業者 2名（株シン技術コンサル2名）
傍聴者 3名（報道機関2名、随行者1名）
事務局 3名（海野事務局長、大川事務局次長、加藤事務局員）
4. 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議 題
 - ① 公共交通市民意見交換会の開催結果について
 - ② 留萌市地域公共交通計画に盛り込む内容について
 - (4) テーブル討議
 - テーマ1：定量的な目標設定
 - テーマ2：目標を達成するために行う施策の確認
 - テーマ3：公共交通施策に対する私たちの関り
 - (5) 全体討議
 - (6) その他
 - (7) 閉 会
5. 配布資料
 - ・次第
 - ・資料1 市民意見交換会開催結果
 - ・資料2 留萌市地域公共交通計画に盛り込む内容

【会議概要】

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

▽渡辺稔之会長

本日は、大変ご多用の中、令和3年度第3回留萌市地域公共交通活性化協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

協議会の開催に先立ちまして、一言ごあいさつ申し上げます。

令和3年度も残すところわずかとなり、留萌市地域公共交通計画素案の策定についても佳境を迎えております。

11月に開催をいたしました第2回活性化協議会においては、計画策定に向けた調査結果のご報告をさせていただき、市民の生活交通についてテーブル討議形式でご議論をいただきました。また、11月から12月にかけて開催をしました公共交通市民意見交換会では、市内公共交通について、利用者がどのように感じているのか、仮にAI運行バスのようなデマンド交通を走らせるとどうかについて利用者の方々と意見交換を行ったところであり、計画素案の策定に向けて具体的な施策を協議するタイミングとなりました。

本日の活性化協議会につきましては、公共交通市民意見交換会の開催結果のご報告と、留萌市地域公共交通計画に盛り込む内容についてご説明をした後に、テーブル討議形式で留萌市地域公共交通計画に記載する具体的な施策等について、皆様と討議をしたいと考えておりますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

(3) 議 題

① 公共交通市民意見交換会の開催結果について

▽(株)シン技術コンサル榊原氏より説明

資料1 市民意見交換会開催結果

意見・質問

- 1) 意見交換は全3回あるが、参加者は何人か。
⇒第1回が1名、第2回が4名、第3回が4名の合計9名が参加した。
- 2) 参加者は、車を持っていない人や高齢者が多かったのか。
⇒車を所有しているが通勤はバスを利用している等、バスを身近に感じている方たちが参加されていた。
- 3) アンケート結果の中に『運行便数の多さ』という項目があり、不満・やや不満という意見が多いが、これはどのような意味か。
⇒現状の運行便数が少ないと感じている人が多いことを意味している。
- 4) 参加者9名の意見が全体の意見だとは理解しがたいが、意見を聞く場はこれで終わるのか。

⇒数が少ないということは否めないが、意見交換会に参加されるということは公共交通に対して特に興味のある方たちであり、発言を聞くことで思いを受け取ることができた。今回は全市を対象にしていたが、今後新しい路線を運行する際には、対象地域の方に対して意見を求めたり、きめ細かい説明をしていく必要があると考えている。

- 5) コロナ禍のため配慮は必要だが、バスに乗り込んで乗客に意見を聞くという方法はとらないのか。

⇒バスの乗降調査の際に人数のカウントだけでなく、ヒアリング調査も合わせて行った。決められた設問に対する回答だけでなく、自由意見も 100 件ほどいただいております、その半数が増便を希望する意見だった。これから社会実験等を行っていく中でも、乗客へのヒアリングを実施し、計画に反映させていきたいと考えている。

- 6) 意見交換会以外にもヒアリングを行っているのであれば、そちらも含めた内容で報告すべきだと思う。

⇒承知した。

② 留萌市地域公共交通計画に盛り込む内容について

▽(株)シン技術コンサル榊原氏より説明

資料 2 留萌市地域公共交通計画に盛り込む内容

意見・質問

- 1) 定量的な目標値の設定の内、公共交通の利用者目標値について、令和 2 年度までの減少率を考慮して設定すべきではないか。

⇒現状の施策をなにも行わなければ、人口減少に伴い、利用者人数も当然減少するので、そうならないように様々な施策を打つことになる。現在の利用人数を維持することでも十分に高い目標といえるので、後のグループ討議の中で議論してほしいと考えている。

- 2) AI 導入によるスマートフォン専用アプリでのバスの運行状況の発信検討とあるが、市民にどのように広めていくのか、AI 運行を行っている網走市での事例を紹介してほしい。

⇒スマートフォン専用アプリで予約することで割安に乗車できる回数券をつくり、料金を安くすることで電話予約からアプリ予約に移行を促進したり、高齢者等に向けてスマホ教室を開催したりしている。

- (4) テーブル討議 (※ 事前にグループ分けした 2 テーブルにて、下記 2 テーマについて協議)

テーマ 1 : 定量的な目標設定

テーマ 2 : 目標を達成するために行う施策の確認

テーマ 3 : 公共交通施策に対する私たちの関り

- (5) 全体討議

テーマ 1 : 「定量的な目標設定」

○テーブル 1 からの発表

・様々な施策を講じた結果どれくらいの効果が得られるかが明確に分からない段階で、目標値を設定することに違和感がある。

- ・施策を整理するなかで、一つ一つの施策でどれくらいの目標値となるのかを積み上げた結果を目標に設定してもらいたい。

○テーブル2からの発表

- ・目標値の設定に関しては、基準年次となっている令和2年度はコロナ禍という特殊な数値であるため、過去の数値を参酌したうえで決定すべき。
- ・人口が減少するなかでは、利用者数を現状維持するだけでも減少が緩和できているという意味になる。現実味のない目標値の設定にしても意味がない。
- ・バスだけでなく他の公共交通機関の利用者の目標値の設定も考慮すべき。

テーマ2：「目標を達成するために行う施策の確認」

○テーブル1

- ・AIを用いるならば、説明会を十分に実施する必要がある。
- ・電話予約からアプリ予約への移行の促進策は特にやらなければいけない。
- ・交通事業者の運行体制の維持のために、沿岸バスと行政が連携して施策すべき。
- ・バスの乗り方教室についても行うべき。
- ・峠下線については、スクールバスで代替できるのであればスクールバスに一体化させるように移行するのが合理的ではないか。
- ・地域間幹線系統バス路線は増便されているため、施策の必要はないのではなか。
- ・積雪による交通障害に対して策を講ずるのは難しいのではないか。
- ・沿岸部のバス待合所未設置については数か所くらいであれば設置して良いのではないか。

○テーブル2

- ・子どものモビリティマネジメントの促進には賛成である。
- ・企業に協力してもらいノーマイカーデイを設けてもらう等の取り組みを促していくべき。
- ・バス運賃をキャッシュレス決済可能にしていき、ポイントを付与するのはどうか。
- ・バスの乗り方教室は引き続き行うべき。
- ・自動車運転免許の自主返納に関しては、「促進する」というニュアンスよりはトーンダウンしたほうが良いのではないか。

テーマ3：「公共交通施策に対する私たちの関り」

○テーブル1

- ・AI運行の実証実験に関しては老人クラブと小中学校校長会に関わってもらってはどうか。
- ・JR廃線後の交通結節点に関しては老人クラブと小中学校の校長会、商工会議所、北海道、交通事業者に関わってもらってはどうか。
- ・アプリ予約の促進策に関して老人クラブに関わってもらってはどうか。
- ・交通事業者の運行体制に関して小中学校の校長会に関わってもらってはどうか。
- ・自動車運転免許の自主返納に関しては北海道に関わってもらってはどうか。
- ・バス交通の情報提供に関しては商工会議所に関わってもらい、広告を打つのに協力して頂きたい。
- ・バス待合所、スペースの確保に関しては商工会議所に関わってもらってはどうか。

- ・子どものモビリティマネジメントに関しては小中学校の校長会に関わってもらってはどうか。
- ・観光振興に関しては商工会議所に関わってもらってはどうか。

○テーブル2

- ・フリー乗降路線の導入を視野に入れバス路線の見直しを想定したうえでのAI運行の実証実験をすることが必要。
- ・商工会議所の交通部会とも協力することができる。

▽北海道運輸局旭川運輸支局 松田専門官からの講評

- ・目標値の設定の仕方について多くの意見が出たが、他の地域での交通計画と見比べても、皆さんの意見に同意できた。
- ・意見にもあったように、人口が減少していく中では必ずしも目標値がプラスにならなくてはいけないということはない。しかし、計画の基本方針の中に、新たな需要の獲得という考えもあるため、プラスの目標値を設定することも間違いではない。
- ・目標値は計画策定後に変更できないわけではなく、実証実験の結果を加味して変更していく場合もある。
- ・目標値の指標については国土交通省から示されている標準指標が設定されているが、計画が具体化していく中で推奨指標や選択指標の提案もあるのではないと思う。
- ・計画を担うバス・タクシー会社は、どこの会社も運転手不足や運転手の高齢化という問題を抱えている。道路交通法が改正され2種免許の取得期間が短くなったということもあり、高校生の地元の就職先として、バス・タクシーの運転手が魅力ある選択肢であるということをアピールしてはどうか。
- ・市民に関心を持ってもらうことが重要になるので、町内会や報道にも協力してもらいたい。

(6) 閉会